

トビウオ通信 (R7 第5号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和7年度日本海スルメイカ漁況予報について》

国立研究開発法人 水産研究・教育機構（水産資源研究所）から令和7年7月31日に「2025年度日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」が公表されました。本調査結果・予報は、当センターを含む水産関係研究機関で検討し、同機構水産資源研究所が取りまとめたものです。

今回は、この概要と島根県沖のこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

2025年度日本海スルメイカ長期漁況予報における

今後の見通し（令和7年8月～12月）のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央海域、道南・津軽海域、本州北部日本海海域、西部日本海海域、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

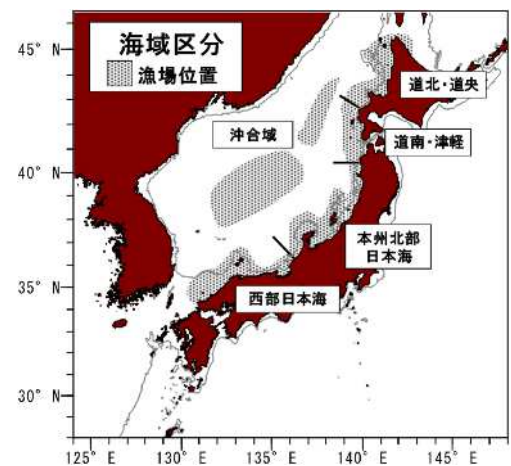
対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

(1) 全体のポイント

全体の来遊量は前年及び近年平均を下回る。

(2) 漁場ごとのポイント

- 道北・道央海域では前年及び近年平均を下回る。
- 道南・津軽海域では前年及び近年平均を下回る。
- 本州北部日本海海域では前年及び近年平均を下回る。
- 西部日本海海域では前年及び近年平均を下回る。
- 沖合域では前年及び近年平均を下回る。



出典：2025年度日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾

☞ 「近年平均」は直近5年間(令和2年～令和6年)の平均、「前年」は令和6年を示す。

☞ 道北・道央海域は8月～9月を対象とする。

日本海スルメイカ長期漁況予報

本紙では、このうち島根県沖を含む「西部日本海」及び「沖合域」に関する予報の詳細について紹介します。これに加えて、「2025 年 4 月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況（令和 7 年 5 月 15 日水産研究・教育機構公表）²⁾」の中から、今期前半（8 月～10 月）の来遊量の目安として期待されるスルメイカ稚仔調査の結果について紹介します。

（i）西部日本海（福井県～長崎県）

西部日本海では、10 月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となります。ただし、近年は、漁場が形成されたとしても不安定で継続しにくい傾向が続いています。

本海域の 5 月～6 月の漁獲量は前年を上回り、近年平均並みでしたが、5 月～6 月の漁獲の中心であった能登半島西部の漁場および山陰から九州にかけて形成された漁場は、7 月にはほとんど見られなくなりました。今期後半（10 月～12 月）の来遊量の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点での調査 CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりのスルメイカ採集尾数）の平均値は前年及び近年平均を下回りました。

以上のことから、今期の来遊量は前年及び近年平均を下回り、漁場形成が不安定であると予測されています。

（ii）沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）

従来、沖合域では 6 月～7 月及び 11 月～12 月にかけて大和堆周辺海域に、8 月～11 月には北海道西沖にも漁場が形成されてきました。しかし、令和元年以降、北海道西沖で漁場が形成されず、主に大和堆周辺海域に漁場が形成されるものの散発的であり、能登半島周辺や佐渡沖が主漁場となる場合があります。

日本海スルメイカ漁場一斉調査における本海域の調査 CPUE は前年及び近年平均を下回ったことから、今期の本海域への来遊量は前年及び近年平均を下回ると予測されています。

（iii）令和 6 年秋のスルメイカ幼生の分布状況

日本海では概ね 10 月までは前年の秋（主に 10 月～12 月）に生まれたスルメイカが漁獲されているので、前年の秋のスルメイカ幼生（主^{がいうはいちよう}に外套背長 1 mm～3 mm）の分布量は、その年のスルメイカ秋季発生系群の親魚量

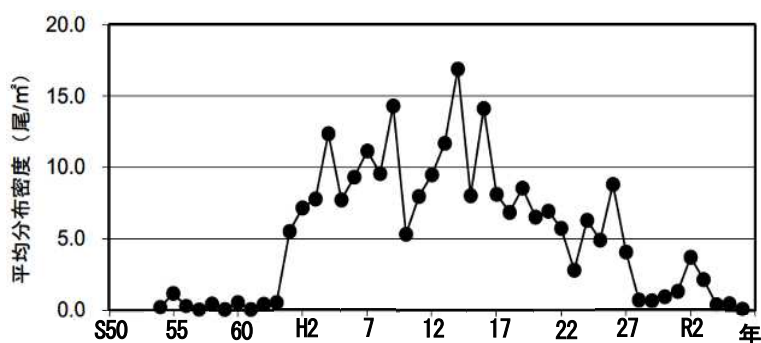


図1 スルメイカ幼生の平均分布密度の経年変化

出典：2025 年 4 月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況²⁾

の指標になることが期待されます。

令和6年は、10月に東シナ海から山陰沖にかけての76定点でスルメイカ稚仔調査を実施しました。その結果、スルメイカ幼生の採集数は1尾のみであり、その1尾は五島列島周辺海域で採集されました。

スルメイカ幼生の平均分布密度（0.07 尾/m²）は令和5年（0.44 尾/m²）よりも低い水準で、令和元年～令和5年平均（1.60 尾/m²）も下回りました（図1）。

スルメイカ漁況の経過と今後

（i）日本海沿岸域の経過（令和7年3月まで）

「2025年4月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況²⁾」によると、小型いか釣り漁業（5トン以上30トン未満）を主体とした日本海沿岸全域における令和7年1月～3月の生鮮スルメイカの漁獲量は、日本海沿岸全域で、前年並みで、近年平均を下回りました（前年比80%、近年平均比37%）（図2）。西部日本海海域では、前年比40%、近年平均比5%となり、近年平均を大きく下回りました。

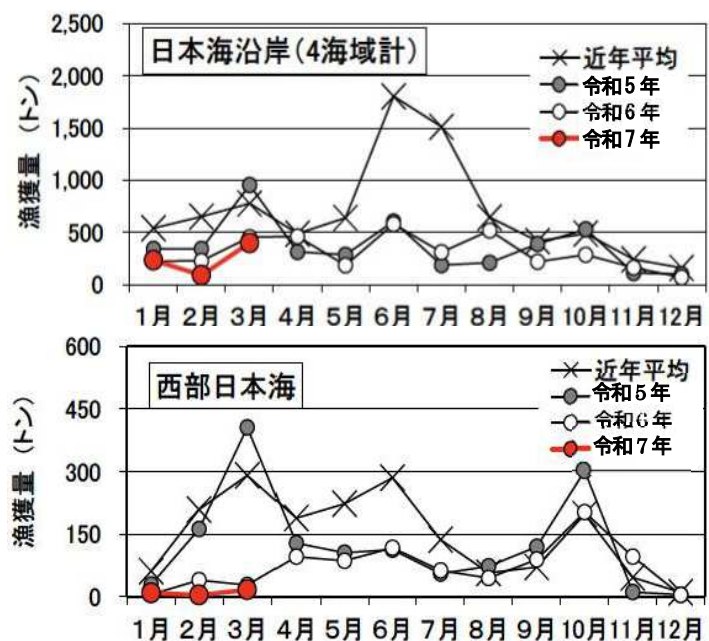


図2 日本海沿岸（4海域合計）と西部日本海の漁獲量（令和7年の一部は速報値）

出典：2025年4月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況²⁾

（ii）島根県沖の経過（令和7年6月まで）と今後

県内主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型いか釣り漁業（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別漁獲動向を図3に示しました。令和7年1月～6月までの漁獲量は86トンで、同期間で比べると、前年（37トン）を上回り、近年平均（110トン）を下回りました（前年比233%、近年平均比79%）。8月～12月の予報期間における島根県沖での漁場形成時期は、従来の漁獲パターンから判断すると10月以降になると考えられます。今回の予報では、今期後半（10月～12月）の西部日本海の来遊量は少なく、漁場形成も不安定であると予測されています。したがって、今後の島根県沖でのスルメイカ漁況は、平成28年以降

(図4)と同様、低調に推移すると考えられます。

しかし、前年は8月～9月にまとまった漁獲があり、さらに今年は5月～6月の漁獲が好調に推移しており、近年と異なる動向が見られることから、今後の漁獲動向について注視していきたいと思います。

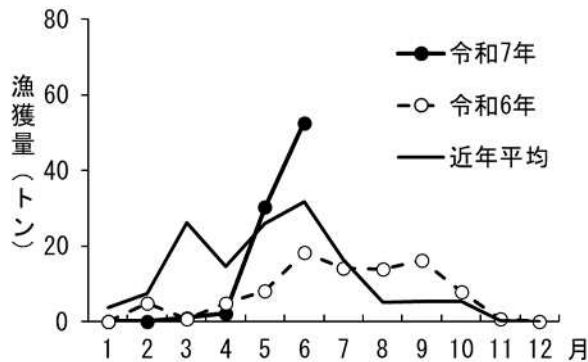


図3 主要3港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの月別漁獲動向
（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

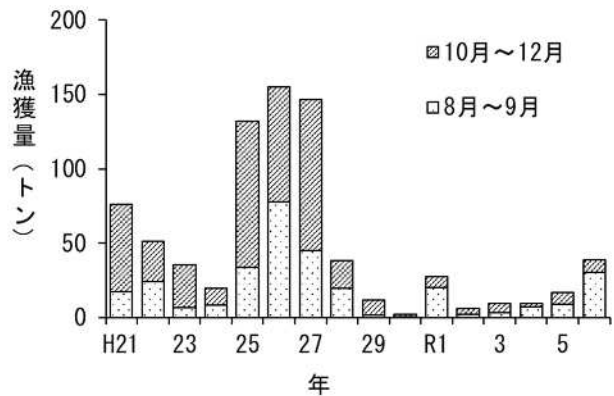


図4 主要3港（浜田、恵曇、西郷）における予報期間（8月～12月）のスルメイカの年別漁獲動向
（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

※本文中で引用した資料

- 1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2025年度 日本海スルメイカ長期漁況予報」2025年7月31日
(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2025/files/20250731_surume-jpnsea.pdf)
- 2) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2025年4月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況」2025年5月15日
(https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/forecast/files/surume_202504_.pdf)